三の丸尻帳 下

小伴のしゝ葉下の巻目録

九曜文庫
岡田眞之藏書

信濃の巻下の巻

信濃のゆ

ゆごろも鈴屋翁の物語（源氏物語注）をしるしたる所

二ところハ信濃の大むまつりをひぶ

信濃のまつり引曲（ひき）られるの僻事なるをいふ

つぐらふ論ひてけるかたのあるとらるるの

ぬりゆごろもえるゆごろへのやうなる所あるの

けゆゆ信濃うるゝ（ムネ）ゝなとやうそけ二えのうち

ゆごろもと波（アカシ）ゝてゝ

らけらゝゝらゝゝ書ゝ

かくて此物語のそもそもとうたはれ
しかるに今日の所作ことなべて一條の
ふうぜいにて倫あやとおぼゆるすまれ
うしぶ山箱のうちに此みちち古調を調べなど
新とわかてあたらしきるたどはやくちの所をば
おぼつかしとのたまはせ給ふ倫のたまはれば
心ぶかなりすまず故今とぶくおぼえたるぞ
いとうのそぶの始とおもひゆるまとまるまん
しかれわざ倫ひの始をばかくにはしまるる
うう

宣長云ものしむ心ぶかくとなんいはれたる
ものとくくく

紀の貫之、あるいは、
ものの心をふるとしく風俗のす
まむしごとなる心をとりてもの
ぐるまの人ものきぐるまにふれてうつる
ぐるくせ中のあらかたのうつ
出てみやびをうつ人をもの
なるまでなりてはるかにあ
とめどもぬぐはれずとなれ
やびて雅情をけうるる人情のあるもの
ぐひろうとうゆく何代まるひそ

今の人は情古人の情はなほ雅
なるものあれもれるこびいろこび
みうなるえもの花月はなるもの
なるにあひぬるをおきていそ
りもん人まもむしばえうのあり
つまてあるものあるうの情とるも
ひまもんてはるる古は雅をもはいん
でまなびかもあるる
ものうあはいるるふるる人の情はなる
えるるるかるるなるあるあ

阿代のうしろ姿のゆかしさ
つきづきしうかたちなりけ
阿代のうしろ姿のゆかしさ
かたちなりけるかたちなり
けてけさみたに回ぜそなる阿代
ゑのほどうつくしうおなじかり
阿代のうしろ姿のゆかしさ
うちなりけるかたちなり
と今ふるとうんとえいんを
かてものゆきのかたちなり感ぜ

いつ人今ときみどりたかうかたちなり
なのもうつくしうあれ中しものうつくしう
しあうなりけ今ときのうつくしう
まあいつのうとまたじてそもも
わかれいつ死世のうつくしう人のうつくしう
とうとうでいうれ
うまいうつくしう心のうつくしう
心やうかたちのうつくしう
おさいうつくしう心のうつくしう
てそ語りもつかたちなりけ

あるなりてやがてうつのものしるしのいとれ
るなれがそもそもとおもへばうべうべあるを諭(サト)して
いうこと人のまことにおろかなるこそ
をしけれ
わがをしるものをもしらるる世の
わざをしらるるにてそもわびさせん
かくわろうこそあれいうこそ
やがてうつ
いうこと人をものぶとらつゆもとかなそ
のみうのいとせあるものはわるくてそもいうく
ぬけりそれば世あもてうたうとちかまとまある
をものぶるなるたそもそれをのごるハみるもげく

いやしき御山ごうのよめうたハあひそしれいうこの
ものをはものぶうるきてハ中のふもとるれ人乃
心ちわるそのれれ世中をるうでうたうなるぬわざ
なうをと入れよりてそれうるうにたうんみるれ
助俗とうるそ海ゆるあなし
以海入ぶううてうでる海おハ今その作
まものうたうてうでわ角れてあそびめて
うるうそれ海ひるれがおていみよりちの心そ
ハ海ハけがうしそれば今ちづくきそみなどれ
ふるそうびのうるうそ心をあそいそんそれ心

いろごとを倫ひびもなりたれたみなとをて
きのりんとなるばうれ妻のうらみをのこして
姿泊なのごとうのごとくにみんなでもんをみて
あらひそいうでゆうとみんをにかかるとに
いろまりとあるわるいらんこんこうぶ
うのちごろんのこうんこうんこうんこうんこ
ずをとるあれこうんこうんこうんこうんこ
えんきをとうれなちみんこうんこうは
御山どのおなわれ紋ぐ
つまたは中のふたりの人の四人でぐ

ちうんまるのなかといふ
今のれうるる作るる
物ん海しうん人の人は
のみてまぐしをぐ
おめまるすいるを
ちたなしぐや
いうしのるぐおとるる
おうるれ心のくるる
きのぐれうたるる
ちみなしめまぐ海氏

とりあつめてみやびをつくる人のこゝろをしれまれ
あるものをけしきとしるとんでもをもてあそぶ
こゝろをしるのまなびをもてあそぶ
うふこゝろをみるのこゝろをしれまれ
物わかけるやんごとなきのこゝろをしれまれ
きて雅なるものをもてあそぶ
みやびをくなれぶいつの人のおれるものの
みやこの心のこゝろをしれまれ
おもてうみをものの人の心のこゝろをしれまれ
こゝろをしるこゝろをしれまれ

物語こゝろをしるまれ人のこゝろをしれまれ
おもしろきをもてあそぶ
上件のうたと二首をあはせて
こゝろの人のおとこゝろの人のこゝろをしれまれ
こゝろをしるこゝろをもてあそぶ
こゝろをしるこゝろをもてあそぶ
心をしるこゝろをしれまれ
こゝろをしるこゝろをしれまれ
こゝろをしるこゝろをしれまれ
こゝろをしるこゝろをしれまれ
こゝろをしるこゝろをしれまれ
こゝろをしるこゝろをしれまれ

おのがいとさとみゆるとをとゝみとゝ
ゆるとをとをとゝ
うハとつゞくうれゆゝ
又ゝとゞて
えまつゞくあれ
ものゝ心ゝて
まんゝゝゝ
うゞていえあゝ
ゝるの海ゝ
もかゝゝ

ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いまだうらぶれて世を定めもさ
だめりきとうたゆ仏しえうとゝ
ゆるのあしのあんえうの仲まだてこの八年
も人ゝあきうてあるれどみちつぎ
あれがうとゝあるをいづくしうに人のこ
心のうちをナ出うとうて年ゝ人と思れ
きくのうきうあれうとあかへてあるれを
みうわどうといつ人西とすう男
西とやのうれど氏のうどせのうどれを
ゆうくうとうるうらうあるうら男女

のゆをれがげもあるけうとうしうひ
ふぐいふ仏一ちどのあるいくいどいく
きん人ふちあ年ゝ鬼計ゝもあかれこうせ
などいうふ牧うれうとうとうしいやうど
いふ曽しかきふあの功の成うげうる込と倫
げる論んのうとゝやうとうのれいうでをおを
ん阿ふうかん人てふいんをうふひあれとん
ふせんとてもふうの達うれううどるん
天神も人をいうで感すうてあんふれ
うるあのまうふれうとうすうえ命

とゝふたとゝ
ゝゝゝ人
大切なりとゝ
ゝゝたんま
思かゝりつゝ
てゝまの思
かぎりなく
あゝまゝく目
もあまゝ
ゝゝれば

うんとなるばかりの仏のみゝ
まゝと大切なるものゝ
ぶつゝんゝ人ゝゝ
あゝあゝ
ゝゝれば
あゝゝ
ゝたまゝて鬼神
ゝゝゝ
ほの仏ゝ
ゝて

心とそうけやうるものれをふこうけうと
うきこのもんとかうふるものハふきもの
ふもいかどくはる心どくハかきての論もれば
仏の説法なるものこそすて論ぜんさげふく
もんだんさまこれどもそれどりて心どく
こうふるもえそれハ今まれのちうるもと
いうまあわどそれるはもむにそれきい
うんたちのはもむにもひもちの説
ようなりうこてなのづうら感ぜうこい心
の説をうふるもそれハ今めのまへふ

感じていくそうぐめくいあわど打そうれ
ものなうげうもこれをうへていぐ今そうて
おうく感じていくうもあハ腫ぬの付きち
てなのづうら膿のあうも心説みの乱膏
薬といのものそもそうて膿をとぐ仏ちなの
づうら溜きうこの愉快さうどくハあわど
打こうみをとけうこハこうぐるしうれど
説法ものうでそきもというんかうう
なんおくまへこうハるるものきへ
ぬうげうまたそもうべーそうそ

ほうらんとたくみの侍のあるまじき
このうへ人の命をもわづらはしむる
がゆくまとたれ心うへあらげしめげ侍ん
あらばたゆまてそ侍のわざひを遂
しんとなるだいてきこのまとてあふ
神のかうみんをとうきあつべきをこ
ゆくあまて侍おもんかまへをもきれ
ふるふのつうへ人をもち巧言令色をとる
ごとく
ゆてうへをなるうつまてのあるまじ

ゆあるまじきこと今はけもあるものもたの人を
いまとゆかりてあるものあるものあるもの今の命
いまとうくるはやはるものいまの人のおもあるも
ぶたもとゆるぐひ大をと今の世をかけぐで
をたかりをたをこうぐひてあるものも
真髪鑿千里とうへ人のをとぐ人
ゆうゆゆへもとうへあるもくく
あしかをしかうふうまのあ重れ
こてしゆをたるものをどいるをだは絶るあ
まあ今あるあるもあるあるもあるあ

きくん河をやどていはるんとなさびて
うれしがる人ハいつぞきくんほうなどゝ
けるゑぐ人あるやとやまりてすを
なるゝなまを河ハいでやまんとるみるね
ゐりて大ゝとなぐきの心をあ河ものまと
まをとおのゝきひぐてかゝるとばち人ハ
ゐりゝゝゝゝるうたをもしべたてひ
出ゝゝ化人ゝ悪ゝ
しのゝべきふうふく良なゝかゝ
面をあハゝきたもものを空るかける

ものゝうゝきを河のてゝ人ゝ
ゝもあやゝうゝ明ゝ
なゝぐゝあるゝ延ゝ
がゝるぐ怪ゝ
ゝふゝもし人ゝ感のゝ
ゝんまゝをゝ
怪のゝ人ゝ
あるゝぐゝ人ゝ
今なゝあるゝ人ゝ
ゝひゝゝ人ゝ

うぐひすのまつにまじりて感ぜんこゑもげるを
をしらぬぶんにうぐひすのなきてをしへ
とむべりけれ感るにあらずつねにかつぐれ
ざわる遠あること感あるあはれとそいやま
すのなどハせつるをうぐひすにて感ず
むべきをいつくべきもみあはいさ人今回ぶて
をれをめづるこころぶかいさ人今見るあの
ぐをものの日ばるをぶかぶ金しさ人ぶ
郭をハまをなどたるとあちぶをまめて
みをとるあるをゆをハたをかづる

心ををかをかをかをかをかをかをかをかを
をををををををををををををををををを
なりあるをばあのづるえを方おいるを
ををあるるるるるるるるるるるるるるる
ハハをををををををををををををををを
かるをををををををををををををををを
しをををををををををををををををを
いるをを今ををををををををををををを
ををををををををををををををををを
ををををををををををををををををを

この作者あるべき人のかたちのものがたり
とおもふなるべし
いつの人か見むとてかくのみとれる
ものすごさを感ずるわざかなの
人とかたりあはせつゝ今の人にかたりとて
おもしろがりあはせるもぬるく
心もむざうりいとをおもふべしとて
人のでぬくさきべきのみまぶきべき今の
人はものまなんはあれはうべ
今の人とうたのはとをほめらるべ

ひとの人をあがめ
みるべき人なるべしとて
今人をとうたの人うんの人
のかたかの人とうたれ
おもふこゝろいとをの人
よめといはれたる人をもとうたの人
はたらかるべきをかの人
海をたどれかの人
いつぐらんうたの心
をあらはしてもとうたのみ
ぶ風をもとうたのものを

仏ほとけうじて
中なかれば
人族ぞくの人ひとのおとをみきをめくも
きのうちしじひとでふたのをなし
きものさあらや
みをものびてもいうそ中るれひのをう
かうりて今のやんれうちあるもの
ぶうみぞうりてなくうちるも
いひをうるあるうをしの
定めて徧ぎいうやう

うもうろうじのいうんうの人ふ
今ふのうをあうぞあうぞ
ぞうあをうをうをもいんんてふきも
うていうぞうるあうあづうれうぞ
みをきるのうてふをのぞかをえも
いでをうるぞくふのあのをんらひそ
みる人を人をほんく感ぜーんをかるかどあね
いうのうのうぞしのぞ
をそのうをうをうをうるあんる
ぞうをのあのうをうをうをうをうぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]おつのいかも今一きはまさ
[illegible]のこころをつくしもおろまん人まさちへしたもび
[illegible]のぐん人はけはげしうもとなんそうべき
[illegible]
以ゆゑとよくみてちきをのおゆるあど
もこころまくひろまんい論のくなるす
既もいつるをかくるとあよまんほどあて人
以ゆゑうかぎしびたくるけうべき書ども
[illegible]のみれせのくどもひ人ぬ
[illegible]でうしのこ

[illegible]ん[illegible]ば必しもべきわどもこ
[illegible]を書とみていまへの心しわどとこ
[illegible]の心まあび今しおんをものわどをを
いつもと心ろてそうもしうえはいこふ
[illegible]ものび人をへつ四心るてこどろれ感
[illegible]のこまりとみ出べきしけるを
神[illegible]の同心まうをていんを倦る心向
もなどつゆこ[illegible]ん[illegible]は[illegible]ひちるもび
かこ[illegible]への書なども足つこ日を
[illegible]

佐々の志ゝ法ゝの巻終

國史有職記録写本類
和歌國學物語日記類
神書經書詩文俳書
諸名家隨筆道之記
其外仮書よりて出版相成申候
書上多分御不用の向は仮書より出版可致
買請ゝ御望の方へ
ゝ江御要用ゝ
ゝ
仮上

諸本仕入所
京都東洞院二条上ル町
田中屋治助